

いまの大鹿に思うこと。②

時の流れにおされ、今の大鹿の静かな良さが失われてしまふ悲しさ。

暇をとりて夏祭の煙火を思い出して下さい。あの煙火の良さは小さな玉でも「音」がすばらしいのです。大西山の岩肌にはおかえりすばらしいのです。しかし考えて下さい。

数百・数千台もの大型ダンプ・工事関係の車が毎日一日中その大西山の下を走るのであります。

そしてその時に出る車轉音が東側の山に向かそ響音ひびきいてくるのです。そしてホコリもです。

大河原の人々はそのほとんどが東側に住んでいるのです。小学校もデイサービス施設も。大西山だけではありません。釜沢の谷も上截の谷も、落合の谷も、山渡線の谷も車の通るすべの谷でそれがおきうるのです。

それが十年もの間続くのです。とずうとずうと続くのです。

今は家族以上に大切なペット、耳の感度はすばらしいのです。その耳にも車轉音はくるのです。かわいそうです。ごい事ごいことです。鳥も他の動物もムシも何もかも離れて行くのです。そして住人も。

人々が一人また一人といなくなる。

そんな事にならないよう

みんなでもっと関心をもつて

見て行かなくては

とりかえしのつかないことになってからではおそいのです。

二〇二五・七・二六 つづく

大鹿の見張番